

26Z-am10

グミモドキ葉部より単離した新規メガスティグマン配糖体 (2)

○川上 晋¹, 松浪 勝義¹, 大塚 英昭¹, 武田 美雄²(¹広島大院医歯薬, ²徳島大総科)

【目的】グミモドキ *Croton cascarilloides* Raeusch. はトウダイグサ科ハズ属の植物で、沖縄、台湾、ベトナム、マレーシアに分布する。我々は沖縄県産未利用植物資源の有効利用のための基礎化学的研究の一環として同植物の葉部の成分、特に配糖体成分を中心に研究を行っている。昨年、横浜で開催された本会にて、新規メガスティグマン配糖体 5 種を報告した。今回、更に同植物の成分研究を進めたところ、新規メガスティグマン配糖体 4 種を単離し構造決定を行ったので報告する。

【方法・結果】グミモドキの乾燥葉 (6.53 kg) をメタノールで抽出し、常法に従い溶媒分配を行った。得られた 1-BuOH 可溶画分 (128 g) を順次、Diaion HP-20、silica gel、ODS カラムクロマトグラフィーおよび DCCC、HPLC で分離、精製を行

い、新規メガスティグマン配糖体 6~9 が得られた。新規メガスティグマン配糖体は NMR スペクトルを中心に、各種スペクトルにより解析、構造決定を行った。現在この他の類似構造のメガスティグマン配糖体の構造決定を詳細に行っている。

